

2017/7/21

株式会社 山と溪谷社
http://www.yamakei.co.jp/

副題は「山で死んではいけない」。

ヤマケイ登山総合研究所による『登山白書 2017』が刊行



インプレスグループで山岳・自然分野のメディア事業を手がける株式会社山と溪谷社（所在地：東京都千代田区、代表取締役社長：川崎深雪）は7月21日に『登山白書 2017』を刊行しました。

■ ヤマケイ登山総合研究所による編集

「登山白書 2017」は、2015年4月に設立されたヤマケイ登山総合研究所が編集、刊行するものです。15年の「ダイジェスト版」、昨年の本創刊に続いての、2017年版の刊行となります。

この1年間の話題や統計で登山界を巡る今の状況がわかる1冊で、遭難事故統計、各地の入山者数、気象状況、用具購買動向、ライフスタイルなどがわかるイヤーブックです。

■ 遭難事故を減らすことが登山界の大きな課題

「登山白書 2017」では、増加する一方の遭難事故（2017年6月15日の警察庁発表の2016年の全国統計では、遭難発生件数2,495件、遭難者総数2,929人と、過去最多の前年との比較では、それぞれ-13件、-114人と減少してはいるものの、多発状況は続いています）を少しでも減らしたいとの意図から、「山で死んではいけない」という副題も付して、遭難事故のデータや事故防止に関する情報を中心に構成しています。

■ 登山のスポーツ化、未組織登山者の増加のなかで出てきた新たな傾向

2020年東京五輪の種目となったスポーツクライミングの愛好者は60万人、クライミングジムなどの施設は全国で500軒を超えました。トレイルランニングの盛り上がりなどにも見られるように、登山分野の「専門化」、「細分化」、「スポーツ化」が進むなかで10代、20代の若者らの参画も増え、新たな層が「山」という舞台で活動する傾向は拡大しています。また組織に続かない登山者の増加のなか、「SNS登山サークルの現状」についてもレポートしています。

■ 登山に関する最新研究では、子どもたちの研究成果も掲載

登山に関する最新研究の章では「登山者の学びに関する実態調査と登山者の育成環境構築について」、「高校山岳部での安全対策—長野県の場合」等の、登山者の育成を通じて、遭難事故の防止につなげるための研究や実践、「筑波大学の山岳科学への取り組み」という新しい試みのほか、「ヤマビルを研究する子どもたち」と題して、山ビル研究会の子どもたちの取り組みにも触れています。

【主な内容】

- ・ 2016年山岳遭難事故の発生状況まとめと、山岳遭難事故事例集
- ・ 国民の祝日「山の日」に関連し、全国各地で催しが開催

【書籍詳細】

書名：登山白書 2017

編者：ヤマケイ登山総合研究所

価格：2800 円＋税

体裁：A4 判・160 ページ

ISBN：9784635176125

<https://www.yamakei.co.jp/products/2817176120.html>

■ヤマケイ登山総合研究所とは？

ヤマケイ登山総合研究所は、山と溪谷社が創業以来 87 年に渡り、様々な登山関連情報の発信を続けるなか、登山界、登山業界全般を通じて調査、収集、研究されている情報を包括し、年度版『登山白書』の刊行をおこなっています。

【山と溪谷社】 <http://www.yamakei.co.jp/>

1930 年創業。月刊誌『山と溪谷』を中心に、国内外で山岳・自然科学・アウトドア等の分野で出版活動を展開。さらに、自然、環境、エコロジー、ライフスタイルの分野で多くの出版物を展開しています。

【インプレスグループ】 <http://www.impressholdings.com/>



株式会社インプレスホールディングス(本社：東京都千代田区、代表取締役：唐島夏生、証券コード：東証1部9479)を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「モバイルサービス」を主要テーマに専門性の高いコンテンツ＋サービスを提供するメディア事業を展開しています。2017年4月1日に創設25周年を迎えました。

以上

【本リリースについてのお問い合わせ先】

株式会社山と溪谷社 担当：久保田賢次（ヤマケイ登山総合研究所 所長）

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-105 神保町三井ビルディング

TEL03-6744-1912 メール：info@yamakei.co.jp